

仏教章へのお誘い

スカウト運動は、指導者をはじめ、すべてのスカウトを、宗教的な回心(えしん) (自己の不信の心に気付いて、宗教の世界に向かって心が開かれること) へと導く架け橋となるものであり、宗教的な情操のなかで、ベーデン・パウエル (B-P) が示した「ちかい」と「おきて」の意味を考えるとすることは、社会に貢献することのできる慈愛に満ちた人間社会の実現をめざすものであるといえます。

したがって、B-P は、ちかいの第1に「仏と国とに誠をつくし・・・」をあげ、人格形成の基盤にし、スカウティングの根本原理の第一にも「神、宗教に対する義務」(第1章第2条原理)が設定されているわけです。言いかえれば、スカウティングは人づくりであり、人づくりだから仏に誠をつくすことを義務としてちかいます。

そのちかいを実現するスカウティングの中で、明確な信仰を求め深めることによって、ますますちかい、おきての実践を高めることが純正なスカウティングです。

B-P は『スカウティング・フォア・ボーイズ』の中で「宗教というものは、少年たちに教えることができるものであり、かつ教えなければならぬ・・・」

と言い、また 1924 年 8 月、コペンハーゲンの国際会議の宣言決議として

「スカウト運動は個人の宗教的信仰を強めこそすれ・・・中略・・・スカウトのおきては、スカウトが誠に誠実に自分の信仰を実践することを要請するものであり・・・」

としています。

このような基本に従って、日本連盟では、1-21 に「本連盟は、本運動に参加する者が明確な信仰をもつことを奨励する。」と規定し、1-24、の各条には、各自が所属し、信仰する各教宗派の儀礼や行事には、すすんで参加を奨励し、1-22 でスカウトカウンセラー、7-7 では宗教章について規定されています。このことは、スカウティングの高まりと信仰に深まりが一体となり、からみあってお互いに育ちあいながら進歩してこそ人格形成という目的が達成されることを示しています。

また、7-31 は、

「明確な信仰をもち、自己の所属する教宗派の行事に進んで参加する」と規定して、ローバースカウト隊に上進するまでに各自の進行を明確にするように示されています。

この到達目標から逆算して、あなたはどう思いますか。さっそく勉強にとりかからないといけません。隊長に相談し、ご住職を紹介していただき、教えをうけるように心掛けないと、純正なスカウティングの道からはずれることになりましょう。気がついたら、その時すぐに軌道修正を試みましょう。きっと本物のスカウトになれるでしょう